

いと  
もうもい  
偵探



CV : bon

イラスト : lilish

作者 : 嘴太鴉

製作 : ひなた古書堂

## あらすじ

気がつくと、何も見えず、口も塞がれている  
手や足に力を入れても、動けない  
拘束されている…もしかして誘拐された…！？

探偵の兄を持つ、女子大生の妹  
『憧れの兄を手伝いたい』  
そしてそれは捜査の助手という形で実現する。

しかし、ある人物の尾行の際  
自らのミスで犯人に捕まってしまう。

不安や恐怖に耐えながら  
誘拐され、監禁された場所から  
なんとか脱出をはかろうとするが…

制作・著作 ひなた古書堂  
<http://hinatakosyodou.blogspot.jp/>



## 探偵妹 【青柳 ハル】

「案ずるより産むが易し」をモットーに生きる良く言えばアクティブ  
悪く言えば猪突猛進な元気いっぱいの女子大生。

兄からは「大学生になったくせに中学生のような落ち着きの無さ」と呆れられている。  
だが、どんな状況に陥っても動じることのなく精神力と  
いざという時でも冷静に状況を判断し速やかに動ける機転の速さは  
辛口の兄も認める程に優れた能力である。

異性の目を惹くのに十分な容姿を持っているのだが  
重度のブラコンな為は今時の女子大生ではありえないぐらいに男っ気がない。  
護身術として空手を習っており、一応二段の腕前を持つ。

今回探偵妹を生み出したきっかけは元気なブラコン妹が  
見たかったと動機はいたって不純なものです（笑）

衣装がショートパンツな理由は元気な娘はスカートよりもショーパンが似合うかなと…  
スイマセン、脚フェチの自分の趣味です（笑）

著者：嘴太鴉

『いもうと探偵』体験版

小刻みに震える振動と、唸るような低いエンジン音で私は目を覚ました……。

身体に伝わるシートの感触、どうやら車の座席に寝かされているようだ。

私は目を開き周囲を確認しようとしたのだが、瞼がまったく開かない、何か張り付きそれを邪魔しているようだった。

更に口にも同じように何か張り付いていて開けない、私は舌を動かしてそれを取ろうとしたが、何か口の中に詰め込まれているらしく舌が動かせない。

私は身体を動かそうとしたがまったく動かせない、手首は後ろ手に回され何かを巻きつけられていた。

更に足首にも同様に何か巻きつけられ立ち上がることも出来ない。

私はようやく今の置かれている状況を理解出来た。

目隠しに猿轡 ≪さるぐつわ≫、そして手足の拘束。

私はどうやら誘拐されてしまったらしい。

いったいどうしてこんな状況に陥ってしまったのだろうか、まだ少し朦朧 ≪もうろう≫としている頭で私は何とか記憶を辿ってみた、そうか、あの時……。



私は今年の春に高校を卒業し、今は実家から離れた大学に通っている。  
なぜ地元から離れ、その大学を選んだかと言うと、大学の知名度が高いことや入りたい学部があるってのも理由だけど、やっぱり下宿先がメインだったかな。

私には歳が離れた兄がいる、何年も離れて暮らしていたけどようやく再び一緒に暮らすことが出来た。

そう、その下宿先と言うのは私の兄の自宅だ。

兄の自宅は古びたテナントビルを、会社事務所兼自宅に無理やり改装したなかなかワイルドな感じのところだ。

兄はそこで探偵事務所を開いていた。実は兄は昔、刑事だった。

だけど上と衝突してしまつたらしく、窮屈な組織の中ではやってられないと警察を辞め、民間の調査会社……所謂「いわゆる」探偵に転職したのだ。

元々不器用なところがあつて、長いものに巻かれるのが嫌いな人だったから：：。

私はタダで下宿させてもらうのもなんだからと、兄の仕事の手伝いをして思つただけど：：

「お前に出来るか馬鹿、別のバイト探せ：：」つと一蹴された。

うちの兄はちよつとつれないところもある：：まあ私に危険なことはさせたくないという心遣いもあると思う、心根は凄く優しい人だから。でも私はそんなツンデレなお兄い：：コホン、兄のことが大好きだったりする。

だが折角お兄い：：兄の役に立てる歳になれたんだもん、私も「ハイわかりましたと」簡単に引き下がるつもりもなく、散々ゴネたりすかしたり脅したりして、結局「危険なことはいししない」「学業の方を優先させる」言う条件で納得させることが出来た。



そして私はこの度、素行調査を頼まれたとある会社社員の男の見張りを仰せつかった。

その男は、会社の機密情報を他社に流している疑いがあるらしく、今日もまた怪しげな感じのする男とその会社員が会っていたところだった。

兄はその怪しげな男の方を尾行することとなり、私は会社員の見張りを頼まれた。

私とその会社員の男を見張っていると、その男の携帯に誰かから電話がかかってきた。

その電話を受けた会社員は突然早足で移動を始めた、その姿を見失わないように私は男の後を追いつつ兄に連絡をとる。

兄は「嫌な予感がするから無理に追いかけるな」と言ったが、私の行動が気になり、兄の忠告を聞かずに男の後をつけた。

男はどんどん人気のない倉庫街の方へと向かっていく、怪しい……。

そして暫くすると男が突然、何を思ったのか脇にある路地に駆け込んだのだ。

私は男を見失わないようにその後を追いつ路地を曲がった、その時……

ドンツニ

突然目の前にガタイの良い男が現れ、私は避けきれずにその男にぶつかってしまった。

私が「ゴメンなさい」と一言謝って、その男の脇を通り過ぎようとしたその時……

ゴスツ!

突然後頭部に強い衝撃を受け、そのまま意識を失ってしまった。

そして今に至るわけだ……



《本編へ続く》

いもうと探偵

二〇一三年十一月二十六日公開  
二〇一三年十一月二十六日修正

著者 嘴太鴉

表紙・挿絵 **iiiish**

装丁 月見

監修・編集者 月見

校正 月見

ひなた古書堂

発行元 ひなた古書堂

<http://hinatakosyodou.blogspot.jp/>